九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[002] 生活体験学習研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/8991

出版情報：生活体験学習研究. 2, 2002-07-31. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

日本生活体験学習学会誌　第２号　143―145（2002）

日本生活体験学習学会　事務局報告

Ⅰ　日本生活体験学習学会理事会会議日程

第１回　2001年４月15日　福岡県立社会教育総合センター
第２回　　７月４日　福岡県立社会教育総合センター
第３回　　11月４日　九州大学教育学部社会教育学資料室
第４回　　11月26日　九州大学教育学部社会教育学資料室

Ⅱ　会員実数　2001年12月23日現在

個人会員　143名
法人会員　　３名

Ⅲ　これまでの活動

＊第２回研究大会　開催
2001年３月17日、18日
於　福岡県立社会教育総合センター
＊第２回生活体験学習実践交流会　開催
2001年９月15日
於　福岡県庄内町生活体験学校
＊学会通信の発行
第６号　2001年１月10日発行
第７号　2001年５月21日発行
第８号　2001年８月３日発行
第９号　2001年11月23日発行

Ⅳ　理事会での協議事項及び決定事項についての報告

なお、以下の原稿は「日本生活体験学習学会学会通信」第７～９号に掲載しております「事務局からのお知らせ」によるものです。

⑴　第２回学会総会での決定事項

（学会通信第７号掲載）

本年３月17日㈯に日本生活体験学習学会第２回総会が開かれました。総会の出席者は70名と総会の定足数を満たしておりましたので、決定事項は総会の決議事項として、ここに会員の皆様にお知らせします。

総会では、出席者から窪田貴子会員（甘木市子どもの文化ネットワーク）、久野坂明彦会員（生活体験学校）が議長として選出され、議長の議事進行に従い進められました。南里悦史事務局長からこれまでの経過方向と会務報告がなされ、2000年度決算と2001年度予算案が拍手によって承認されました。また、古賀倫嗣選挙管理委員会委員長から去る２月に行われた役員選挙結果が報告され、了承されました。その後、学会誌創刊号発刊について森山紀要編集委員会委員長から、今後の研究活動の方向性について猪山勝利研究・組織委員会委員長から報告がなされ、当学会の認知を各方面に広げていくために広く会員を募っていくことや、学会誌の頒布を行っていくこと、当学会の理念である実践と理論の結合に向けて学会活動を充実させていくことなどを確認し、総会は終了しました。

⑵　第１、２回理事会での決定事項

（学会通信第８号掲載）

標記の理事会が平成13年４月15日（第１回）、７月４日（第２回）に福岡県立社会教育総合センターにて開かれましたので、主な報告事項および決定事項をお知らせします。

①　学会体制の拡充と運営について

前号の通信における横山正幸会長の挨拶文にて既にお伝えしましたが、研究活動や交流活動をより充実させていくために、今後以下５つの活動を重点的に行っていくことを決定しました。

Ⅰ．会員の拡充
Ⅱ．「生活体験」に関する具体的テーマでの研究活動
Ⅲ．実践と研究の発展に寄与する実践交流会と研究大会のあり方の検討と実施
Ⅳ．実践者と研究者のより積極的な交流活動
Ⅴ．学会誌の継続的な発行および学会年報の発行と店頭販売

これらの活動への学会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さらに、理事会業務を強化するため「推薦理事」をおくことについて提案がありました。会長指名により暫定的に若干名を「推薦理事」としておくことで、これからの学会運営を円滑に行うためです。

これにより、以下の５名の会員が推薦理事として会長より推薦がなされ、理事会で承認されました。

小方信二（宗像市赤間保育園）
窪田貴子（甘木子どもの文化ネットワーク）
桑原広治（水俣市久木野小学校）
末崎雅美（九州大学）
時田純子（中津市如水保育園）

なお、以上の会員には、推薦理事への承諾をそれぞれ得ています。

②　新理事体制について

本年度および次年度理事会は以下のような体制で行っていくことを決定しました。

会　長　　横山正幸（福岡教育大学）
副会長　　猪山勝利（長崎大学）
研究担当理事
　　上野景三（佐賀大学）
　　猪山勝利
　　小方信二
　　桑原広治
　　古賀倫嗣（熊本大学）
　　南里悦史（九州大学）
　　正平辰男（生活体験学校）
学会誌編集委員会
　　森山沾一（福岡県立大学）＊委員長
　　相戸晴子（筑豊子育てネットワーク）
　　小松啓子（福岡県立大学）
　　横山正幸
学会通信担当
　　窪田貴子
　　末崎雅美
実践交流会担当
　　九野坂明彦（庄内町教育委員会）
事務局長　南里悦史
事務局次長　末崎雅美
幹　事　　東内瑠里子、永田　誠、林田真心子
　　（以上、九州大学大学院）

③　学会誌２号の刊行について

第１回理事会において、森山沾一学会誌編集委員会委員長より、学会誌２号の刊行が報告され、今後の日程について議論されました。その結果、自由投稿論文のエントリー〆切を６月末日、自由投稿論文原稿〆切を８月末日、依頼論文原稿〆切を10月末日とすることに決定いたしました。続く第２回理事会では、自由投稿論文のエントリー結果が報告されました。第２号の詳細な内容については編集委員会で決定していくこととなりました。

④　定例研究会の開催について

学会の研究体制の充実のために、研究担当理事を中心として、今後定例研究会を実施していくことを決定しました。学会としての課題研究を蓄積していくために、毎回の研究会では、報告者による基調報告に基づき、関係者の自由な参加による議論を行うこととします。

なお、第１回定例研究会を９月14日㈮19時より福岡県庄内町筑豊ハイツにて行う予定です。

⑤　文部科学省科学研究費補助金の承認の報告

研究担当理事の提起によって申請されていました標記の補助金（通称、科研費）が、基盤研究(B)(1)で承認されましたのでここに報告いたします。研究課題名は「子どもの心と体の主体的発達を促進する生活体験学習プログラム開発に関する研究」です。

今後は、この研究グループと相互に連携をとりながら、学会の研究活動を行っていくことが承認されました。

⑥　第３回研究大会（2002年度大会）について

第３回研究大会は、平成14年２月23日㈯、福岡県立社会教育総合センター（福岡県篠栗町）にて行うこととなりました。一日のみの午前からの終日プログラムで、遠方の会員の方には前日からセンターに宿泊できるよう準備をいたします。

⑶　第３回理事会での決定事項

（学会通信第９号掲載）

標記の理事会が、11月４日㈰九州大学社会教育学研究室にて開かれました。

そこでの主な報告事項と決定事項をお知らせします。

①　第３回実践交流会の反省

交流会大会担当の正平理事より、実践交流会の反省と次回に向けての骨格が報告されました。

・日程について、９月の敬老の日前後は社会教育行政関係者の参加が困難であることから、次回からは10月の第２土曜日ぐらいを予定したい。
・ワークショップは２本立てにせず、一つにまとめる。
・実践報告を２部立てにし、従来のテーマ「通学合宿

の実践交流」に加え、「大人のものづくり報告」「生活体験学校と総合的な学習の時間」のテーマを合成し、１部を構成する。…など、次回に向けていくつかの反省点が出されました。

また、実践交流会の準備、実施について議論がなされました。現在まで、１～３回とも庄内町で開催してきましたが、今後九州各県でも開催できるような体制づくり（各県支部など）をつくっていくこと、会を受け持つ現地がやりやすい形にしていくこと、などが議論されました。

②　学会誌編集委員会より

９/15の編集委員会の報告と学会誌刊行への見通しが報告されました。また、論文の集約状況などが報告されました。発刊予定日は平成14年２月10日です。

③　研究担当委員会より

研究委員会から、当学会におけるこれまでの研究蓄積の確認と今後の研究方向性について報告がなされました。生活体験の概念の検討など、科学研究費の研究と合わせて検討する事項、これまでの実践の整理、比較研究への着手などが提起されました。

それを踏まえ、学会として今後「宿題研究」あるいは「研究プロジェクト」の形で具体的な研究を進めていくこと、学会誌や年報一つの特集テーマを出せるようにすること、などを確認し、研究部会の議論に引き継ぐこととしました。

④　研究大会担当より

平成14年２月23日に行う第３回研究大会のテーマを「学校完全週５日制と子どもたちの生活」に決定しました。

大会の大まかな日程は、午前―分科会、午後―総会・シンポジウム、夕方―懇親会としました。

自由研究発表へのエントリーなど、詳細は次号の通信にてお知らせします。

⑤　学会通信担当について

学会通信はこれまで窪田理事、末崎理事の２名で担ってきましたが、相戸理事を加えた体制で引き続き編集を行っていくこととなりました。

⑥　事務局体制について

事務局体制の変更が事務局長より報告されました。事務局次長の末崎理事の負担過重につき、職務代行として東内瑠里子会員（九州大学大学院）が職務を担うこととなり、漸次業務を移行することとなりました。